

3年ぶり！「第46回 酪農女性の集い」開催！！

主催：熊本県酪農女性部協議会 らくのうマザーズ

会場：熊本県立劇場（熊本市中央区）

第46回酪農女性の集いが2月24日（金）に開催され、一般生活者と酪農女性総勢400名を超える方々が熊本県立劇場へ参集となりました。新型コロナウイルス感染症に留意し、席の間隔を空ける等の対策を講じつつ、より多くの来場者に催物を楽しんでいただきました。

午前中は、上天草市の観光大使を務め、結婚式やCMの楽曲制作を中心に活動されているシンガーソングライターの「MICA」さんを講師に迎え「繋がってく」と題した記念講演が行われました。シンガーソングライターの仕事をしながら子育てをしてきた経験・葛藤、子供も含めいろいろな方との出会い・繋がることで今の自分がいること、夢は言葉に出して行動することで叶うこと等を中心に話されました。さらに、「二人の道」や「繋がってく」等の生歌を交えて講演され、涙ぐみながらMICAさんの話に共感する来場者の姿が印象的でした。

午後からは、例年実施していた酪農女性によるアトラクションの披露が感染症の影響により困難であったため、代わりに催物で会場を盛り上げました。まず、昨年度の県女性部役員を中心に制作した「酪農PR動画」を上映しました。コロナ禍においても一般生活者へ酪農の理解を深めてもらうため、搾乳等の日常作業や自給飼料収穫作業、

牛乳の製造風景を撮影し制作された動画ですが、多くの一般生活者に「牛乳を家庭へお届けするまで」を学んでいただきました。

さらに、動画上映後は県女性部役員より「乳〜ジカル（劇）」を披露し、酪農女性の日常を面白おかしく（？）表現されました。劇はラジオのパーソナリティ等を務められていた「松崎ひろゆき」さんの監修の下で演じ、来場者の皆さんへ笑いとお元気を届けられたと思います。その他、県女性部役員の意見を取り入れて作られた昼食のお弁当（牛乳を使用した料理入り）の提供や、阿蘇ミルク牧場の乳製品や地域特産品のセットが当たるお楽しみ抽選会の実施、阿蘇ミルク牧場で販売されている「阿蘇の雫」や「濃厚のむヨーグルト」、「とろふわミルクプリン」を詰め合わせたお土産の配布など、来場者に牛乳・乳製品をアピールするため趣向を凝らした数々の企画を実施しました。

感染症の流行以降、女性の集いが開催されず一般生活者と酪農女性が交流する機会が極端に少なくなりました。しかし、動画の上映や劇の実施等により一般生活者へ酪農女性部の「やりがいや悩み」を例年と異なる形で表現し、一層酪農についての知識を深めていただくことができたのではないのでしょうか。酪農女性の集いを通じて牛乳・乳製品の消費拡大へ繋がればと強く念じています。



大川専務 挨拶



富田会長 挨拶



MICA氏

MOTHER'S



第4回酪農後継者育成塾が開催されました

生産本部 営農指導課

去る2月2日（木）に第4回酪農後継者育成塾が開催されました。第4回目は本会大会議室での実施となり27名が受講しました。

開会に先立ち、南部生産本部長の挨拶では、都道府県の生乳生産状況について説明があった後、令和4年の決算を通して1年間の経営の振り返りを是非行ってほしいとの話がありました。また、この育成塾で出来た仲間との繋がりを将来にわたって大切にしてほしいと塾生に向け激励の言葉



鳥羽 雄一氏

がありました。

今回の育成塾は、愛知県に本院を置く(有)知多大動物病院より三重分院長の鳥羽雄一氏を講師に迎え、「今だから基本を見直そう 護蹄と

繁殖」と題し、ご講演頂きました。

繁殖管理については、以下のポイントについて話がありました。

- ・経営が安定している牧場では、授精・妊娠・分娩のサイクルがスピーディーに回っている
- ・繁殖成績の向上は儲かる酪農の基本である
- ・繁殖成績の向上のためには、非妊娠牛の摘発と非妊娠牛を最速で妊娠状態へもっていくことが基本である
- ・とにかく発情を発見することが小細工なしの最良の繁殖成績向上方法である

また、繁殖成績向上のためには初回授精を早く行う、つまり早いスタートでチャンスを多くすることも重要で、分娩後50日で初回授精開始、初回授精受胎率40%、分娩後100日までに全ての牛が授精を終えている状況にすることを、鳥羽氏は目標とされています。



護蹄管理に関しては、以下のポイントについて話がありました。

- ・牛の蹄の役割は、「体重を支える」、「歩行を可能にする」ことである
- ・蹄が悪い牛は、飼槽・水槽へのアクセスが減り、空腹が限界になった時に飼槽へ行き一気に餌をドカ食いするので、ルーメン内での摂取飼料の通過スピードが速くなり飼料効率が悪くなる
- ・蹄が悪い牛は、スタンディングなどの発情兆候を示さなくなり、発情を見つけれないので、結果的に繁殖成績の悪化に繋がる
- ・牛は草食動物で外敵から狙われないよう痛みを隠すので、痛がっている牛はすでにかかなり痛みを感じている

以上のことから、蹄が悪い牛が多い牧場は、どんなことをやっても効果は出にくく、牧場管理の基礎の基礎は「護蹄管理」にあるということが言えます。また、蹄病の予防としては、無駄な起立時間を減らすためにサシバエ対策や暑熱対策、定期的な削蹄や牛が歩きやすい（滑らない、ケガをしない）環境を作ることが重要とのことでした。

今回の研修は、とても分かりやすく興味深い話が多かったことから受講者は熱心に話を聴き、質問も多く活発な意見交換ができていました。

（営農指導課 096-388-3510 担当：作村）

熊本県酪農専門農協協議会第24回通常総会開催さる
「酪農経営安定化に向け、酪農情勢変化への対応を」
—新しい役員体制の下、組織整備協議の進展へ—



山田 会長

去る、令和5年2月28日、熊本県酪農専門農協協議会の第24回通常総会が、県団体支援課加藤課長、全酪連鈴木支所長、らくのうマザーズ隈部会長、大川専務、小池常務他多数のご来賓列席のもと、

KKR熊本にて開催されました。

冒頭、大村副会長（玉名酪農協組合長）の開会、山田協議会会長（西阿蘇酪農協組合長）の挨拶が述べられました。

山田会長は「コロナ禍の事業活動年度であり、なかなか難しい事業展開となった。そのようななかでも全体講習会、全体研修会を実施できたことは、会員みなさんのご協力のたまものと感謝申し上げます。幸いにも会員皆様のご多大なご協力をいただき、例年にも増しての活動へと展開したい」と述べられました。山田会長挨拶に続き、らくのうマザーズ隈部会長、県団体支援課加藤課長の来賓祝辞後、山田会長を議長に議事に入りました。

議事では「令和4年度事業報告及び収支決算承認の件、令和5年度事業方針及び収支計画承認の件、令和5年度会費の賦課並びに徴収方法の件」以上の議案について、池田監事（ホワイト酪農協組合長）監査報告もまじえての慎重審議の上、全議案原案どおり可決承認されました。また、第4号議案で役員改選が行われ、会員相互の互選により、別表のとおり役員体制が決定いたしました。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響下、時機により事業内容に活動修正をくわえ行事行動計画を実践し、当初計画以上へと活動回復をさせた年度でした。

こうしたなか、全酪連常任監事の関和氏を講師に、「理事・監事の責任役割」などの全体講習会や「群馬県の酪農事情」に関する全体研修会の実施、さらには専門農協による組織整備の取組促進や酪農部長連絡協議会との3回にわたる検討会の開催等、積極的な活動が行われてきたところです。

令和5年度は酪農環境の厳しい情勢下、様々な

事業展開を図りながら酪農経営の安定化や本県酪農業発展に資する活動ならびに関係機関との連携協調に努めていくこととされています。

そして、倉本副会長（火の国酪農協）の閉会挨拶後には、3年ぶりの懇親会が参集者全員参加で開催され、組合長みなさん方の意見交換や和やかな交流促進が図られていました。

今後も酪農専門の協議会として、一致協力の方角性をもって進めていくこと、また酪農専門農協活性化のためにも、尚一層、積極的に取組むことが確認された総会となりました。



総会風景



新役員

左から山田氏 池田氏 山本氏 安武氏 衛藤氏

熊本県酪農専門農協協議会 新役員体制

役職	氏名	所属組合
会長	山田 政晴	西阿蘇酪農協同組合 代表理事組合長
副会長	池田 洋	ホワイト酪農協同組合 代表理事組合長
副会長	山本 健二	大阿蘇酪農協同組合 代表理事組合長
監事	安武 英之	火の国酪農協同組合 代表理事組合長
監事	衛藤 彰一	熊本酪農業協同組合 代表理事組合長

COLUMN—コラム—

「酪農の未来は必ずある！」

やわらかな春の日差しがうれしい季節になりました。2022年度（令和4年度）も残すところわずかとなっています。皆様には日頃より大変お世話になり、あらためて御礼を申し上げます。

私事ですが、去年の役員改選により常勤監事を拝命いたしました。農協や企業組織におけるコンプライアンスやガバナンスの強化が求められる現代において、監事の責任が重要視されております。本会は皆様にご協力を頂き、取扱高も600億円を超え、酪農・乳業の両面を持つ総合酪農組織として事業拡大して参りました。ともなう社会的責任も拡大していることから常勤監事の必要性が指摘され設置に至っております。なにぶん本会では初めての職務を担いますので、職責の重大さに身の引き締まる思いですが、本会の健全な発展のために誠心誠意努力して参りますので、ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

さて、今年度を振り返りますと「厳しい」という言葉が続き、街中にネガティブな言葉があふれていたように感じます。コロナパンデミックからの回復は見られず、ロシアのウクライナ侵攻の終息もなきまま、世界情勢は混とんとした様相が続いています。酪農業を取り巻く環境も、需給緩和状態が継続する中、飼料・資材・燃料価格の高騰と副産物価格の低迷は「酪農危機」となり歴史上も類を見ない厳しい状況となりました。春の雪解けではありませんが、様々な障害ごとが解け流れて明るい日常を取り戻したいものです。

ところで、小生は2月に北海道大学大学院の清水池義治准教授による講演「昨今の酪農情勢について」を拝聴する機会を得ました。清水池准教授は農業経済学を研究され酪農乳業について高い見識をお持ちです。この機会に専門家の意見をご紹介したいと思います。

准教授によりますと、酪農は生産物の性質上、需給調整を重要な課題としてきた農業であり、需要と供給の乖離発生を事前に回避することと事後に緩和するための意識的な数量調整が重要であったが、改正畜安法下の需給問題として、指定団体＝農協という指定団体制度の根幹部分が否定され、全量委託販売という一律適用も否定されたことにより、北海道と都府県の地域的分業や酪農家

同士の信頼関係など、暗黙の前提が崩壊してしまい、そこにコロナ禍が加わり問題点を増幅させる酪農危機をもたらしたと分析されています。そして改善には、政府による日本酪農をどうするかの写真を描く事とともに、酪農版マルキン制度など新たな支援対策の必要性を指摘され、農協と生産者は、国産飼料の生産拡大につとめ、そして消費者への酪農・牛乳への理解促進のメッセージ発信が重要であると説かれています。また、最近の状況によると4月より加工向けの乳価が10円改定され、さらに飲用向け乳価の値上交渉がおこなわれており、全用途の乳価値上げ決定や円高への反転で「最悪の時期は脱しつつある」「酪農の存在意義は今後、確実に高まる」「酪農の未来は必ずある」と強く述べられています。一日も早い環境の改善を期待し、生産者各位はもうひと踏ん張りをお願いします。

間もなく新年度を迎えます。今年は「統一地方選挙」が予定されており、4年に1度の「選挙イヤー」となります。日本酪農の経営安定と発展には国や県などによる支援対策が必須であり政治の力が必要です。国際化・自由化が進展する現代では、最も影響を受けてきた産業が酪農業です。コロナ禍を受けて、我が国ではようやく食の安全保障問題についても表面化して参りました。酪農業の現状と国民の健康を支える牛乳・乳製品や肉製品を安定的に食卓へ届け、国土をしっかりと守り地域産業を支える酪農業の多面的機能について、我々一人一人が情報発信するとともに政治参加して参りましょう。熊本県酪政連でも酪農業の安定と発展に積極的な活動を展開されています。令和5年度を酪農復興元年となすべく皆様のご協力をお願いします。

日本は「言霊ことばたまの幸わう国」と言われ、言葉には「言霊」があり不思議な力が宿っているといわれてきました。よい言葉はよい未来につながるといふ日本古来の考え方です。「酪農はいいね。儲かるね。家族で幸せだね。」とポジティブな言葉をうまく使って、幸せな未来を手に入れていきましょう。



らくのうマザー常勤監事
廣田 浩治

分娩時の仔牛の大きさへの影響について

生産本部指導部技術課 伊藤 昂志

最近の酪農情勢では生乳出荷に次いで仔牛出荷も大事な収入源になっており、その中でもF1、受精卵産子による黒毛和種の割合が大半を占めていると思われます。そのような中、分娩の事故により仔牛、親牛のどちらかでも損失することは大きな痛手になります。今回は分娩時の事故の要因の一つでもある生時体重（生まれた仔牛の大きさ）に関わる要因について紹介します。

・生まれた仔牛の性別の差 雌<雄 +2.72kg

雌の判別精液を使用することで生時体重が大きくなるリスクの軽減が期待できます。

・AI産子とET産子の差 AI<ET +0.45kg

・未経産と経産の差 未経産<経産 +0.62kg

産次数が増えるにつれ生時体重が増える傾向があり、初産及び2産時に生時体重が3産以降と比べて低いのは親牛の発育が十分に完成していないためと考えられています。また、仔牛の大きさは経産牛の方が大きい傾向がありますが、初産は体が出来上がってないため、同じ大きさの仔牛の場合に経産牛と比べて相対的に過大仔になり分娩時のリスクが大きくなります。

・在胎日数 1日あたり0.36kg増

在胎290日を超えると雄の場合45kgを超える牛が多くなる傾向があり、難産につながる可能性が上がります。

・分娩時の季節 夏秋<春冬

妊娠末期に気温が低い場合、体表面の血管が収縮し、体の中心部や子宮への血流量が増えること

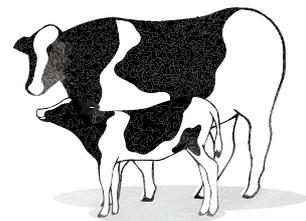
で胎児が大きくなり、過大仔、難産の発生率が他の季節より高くなります。

・種雄牛

種雄牛によって分娩時の仔牛の生時体重の大きさが異なる傾向があります。昨今のIVFやF1では大きく育つ種雄牛がセリで高く売れるため好まれますが、それらの種雄牛では生時体重も大きい傾向にあります。家畜改良事業団では分娩時の仔牛の大きさの目安になる生時体重ゲノミック育種価を公表しており、種雄牛ごとに平均と比べて生時体重の傾向と在胎日数が分かるようになっています。

・その他様々な要因による影響への関与が考えられています。

仔牛が大きい場合に難産になる可能性が上がるため、そのことを踏まえた上で種雄牛、判別精液の使用、受精卵移植と人工授精等の選択を行いましょう。分娩予定日になっても分娩の兆候が見られない場合には獣医師に相談して下さい。牛が大きい場合には必要に応じ分娩介助が実施できるよう、事前準備をするなどの対応が重要になりますが、確実な産子生産のためには、予想される仔牛の大きさに限らず、分娩開始の兆候を確実に発見し、迅速な対応が出来るよう分娩時に付き添う事が大切になります。



熊本県乳牛改良同志会親善スポーツ大会が開催されました！



去る2月15日（水）に菊陽町の菊陽ボウルにて、会員相互の融和と親睦を深め、組織の更なる団結を図ることを目的として、熊本県乳牛改良同志会親善スポーツ大会が開催されました。

この大会は2ゲームの合計得点で競い、今回はペア戦（夫婦）5チーム（10名）・個人戦（協賛業者含む）31名の参加者がありました。

前回個人戦優勝の岩根正尚さん（旭志支部）の始球式でゲームが始まると、各レーンでは笑いや歓声が絶えず、非常に盛り上がった大会となりました。また、個人成績では合計300点超えが6名も出るなど、非常にハイレベルな争いとなりました。各部門の成績は下表のとおりです。

最後に、協賛頂きました各メーカー様、ご協力有り難うございました。この場を借りてお礼申し上げます。

ペア戦成績

各賞	ペア名（支部名）	成績
優勝	川俣 翼・明日香 ペア（熊本酪農支部）	613点
準優勝	松島 太一・ひろみ ペア（熊本酪農支部）	541点
3位	松野 佑哉・あすか ペア（熊本酪農支部）	528点

個人戦成績

各賞	氏名（支部名）	成績
優勝	本田 真人 さん（旭志支部）	317点
準優勝	稲田 健人 さん（熊本酪農支部）	309点
3位	田代 幸大 さん（大津支部）	304点

